

五輪施設『VOC削減が条件』

ふっ素粉体など拡販の好機・溶剤型から切り替えて実績も

東京五輪を3年弱後に控え、また2020年前後を完成目途にした東京都などの都市再開発工事でも最盛期に差しかかってきた。五輪関連では新築される新国立競技場やオリンピックアクアティクスセンター（整備費514～529億円）、有明アリーナ（同339億円）などは基礎工事などが進行中だ。いずれも担当部局は「VOC（揮発性有機化合物）削減に配慮」を塗装材料の選択で挙げており、VOCの排出ゼロのふっ素樹脂粉体塗料やポリエステル樹脂粉体塗料、ハイブリッドふっ素樹脂粉体塗料などの攻勢が目される。

東京五輪で新設される競技施設は前記3施設のほか、海の森水上競技場や大井ホッケー競技場、夢の島のアーチェリー会場などがある。武蔵野の森総合スポーツ施設（整備費351億円）は昨年度中に完工済みだ。特に工事予算規模が大きいのが3施設に海の森水上競技場（同298億円）を加えた4施設になる。

新国立競技場は1550億円程度の工事費が投入される。所管するJSC（日本スポーツ振興センター）によると、新国立の施工では適用基準としている公共建築工事標準仕様書（建築工事編）での「使用する材料の選定に当たってはVOCの放散による健康への影響に配慮する」との記載に則り、VOCを削減できる材料を優先する構えだ。

大屋根には日射反射率の高い白色のふっ素樹脂焼付塗装、外壁にはふっ素樹脂塗装を行う予定だ。

またコンコースの壁はアクリル樹脂系塗装など、コンコースの床は無機系防滑塗料・床材プラスウレタン樹脂系塗膜防水、内部諸室の壁・天井は合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP）などを予定。無機系や水系の材料でVOC削減を図る。

その一方、アクアティクスセンターや有明アリーナ、水上競技場を担当する東京都オリンピック・パラリンピック準備局も、「工事発注に当たり外壁の塗料については従来の溶剤型塗料と比較し、VOC含有量を削減した塗料を使う」（施設整備担当）とし、VOCを削減できる塗料を選ぶという。

※塗料報知新聞 2017年10月7日号（第4190号）「粉体塗料・塗装／機器関連特集」より抜粋



トピックス ABA中部地区勉強会

アルミニウム合金材料に対する塗装品質の確保と向上やその認知普及活動に取り組むアルミニウム合金材料工場塗装工業会（ABA）は、アルミ建材塗装について、多くの研究発表や勉強会を重ねている。

今年7月12日・13日に富山県内において初の勉強会ならびに工場見学会を開催。環境に配慮したアルミ素材の塗装・表面処理等の講演ならびに、三精工業、三協立山、YKK APの工場見学会を盛況を博した。



三協アルミ工場見学会にて
記念撮影

専門誌『塗布と塗膜』最新11月号発売中!

塗料報知新聞社から業界関連総合専門誌『塗布と塗膜』11月号が11月20日に発刊されました。今回の特集は「塗装ラインに関連する機器設備の最新情報」。建築塗装では、塗魂ペインターズによるリトアニアの歴史的遺産「杉原ハウス」の塗替えボランティアなどを紹介。さらに新企画の各テーマごとの「塗料・塗装業界3大ニュース」や5月～7月新製品リストなども好評掲載中です。

塗料・塗装業界とユーザーを繋ぐ本誌にご期待ください。▽体裁＝A4判、64ページ

▽本体価格＝年間購読8,000円（税別／送料込）

